森林講座瓦版

松井 直之 *Matsui Naoyuki*
森林資源化学研究領域

未利用の森林の「お宝」を活かすには？

これまで利用の機会が少なかった森林資源にも、じつはさまざまな使い道があります。たとえば、トドマツの枝葉に多量に含まれている精油は、空気中の有害な二酸化窒素を低減させる優れた機能性を有しています。精油抽出後の枝葉の残渣も生活悪臭の消臭効果を示すなど、トドマツ枝葉は利用価値が高い素材です。針葉樹合板の製造工場の乾燥工程で発生する粘度の高い乾燥廃液にも二酸化窒素を強力に低減する効果があるため、空気浄化機能を有する製品素材として利用の可能性があります。また、放置竹林の増加が問題となっていますが、竹から得られた抽出水には大腸菌などに対する抗菌性が認められていることから、消毒資材としての竹の利用が考えられます。樹皮も現状では有効な利用例が少ないですが、機能性の成分に富むものが多いことから、これからの利用が期待されています。

ただ、未利用資源の利用には高い壁があるのも事実です。収集・加工のコストが高くなること、天然素材であるがゆえに成分量のばらつきがあること、そしてさまざまな活性を有していても既存の安価な合成品ほど活性が強くはない場合が多いこと、などです。これらの壁を乗り越えるために、新たなアイデアや工夫、ぜひ使いたいと思わせるような優れた付加価値が求められます。

（２０２３年２月11日開催講座より）

スギ合板工場で発生した乾燥廃液

トドマツ枝葉から得られた精油（左）と抽出残渣粉末（右）

令和６年度 森林講座のお知らせ

7月11日（木曜日）
「木材と心理―木質空間の快適性を考える―」
本山 友衣（構造利用研究領域）

8月22日（木曜日）
「気候変動と森の病気」
升屋 勇人（きのこ・森林微生物研究領域）

9月13日（金曜日）
「野山の楽しみ：多彩なアクティビティの特徴と課題」
松浦 俊也（東北支所）

10月25日（金曜日）
「夢の技術『ゲノム編集』―樹木における現状とその利用―」
谷口　亨（森林バイオ研究センター長）

11月7日（木曜日）
「ウッドショックが残したもの～爪痕と教訓、変化の兆し～」
嶋瀬 拓也（北海道支所）

12月12日（木曜日）
「日本における林野火災の特徴と予防のための注意点」
玉井 幸治（研究ディレクター）

1月17日（金曜日）
「無花粉スギの苗を大量に増やすには？」
鶴田 燃海（樹木分子遺伝研究領域）

2月13日（木曜日）
「ヤナギを育てて カーボンニュートラルを目指す」
原山 尚徳（植物生態研究領域）

会場◉多摩森林科学園 森の科学館
時間◉13時15分～15時

お申込の受付は各講座開催日の前月の1日から。受付は先着順で、講座開催日の1週間前が締切となります。ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、往復はがき、または電子メールでお申し込みください。お申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。
最新情報はホームページをご確認ください。

◆お問い合わせ
〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81
多摩森林科学園
電話番号：042-661-1121

HP：https://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/index.html　**E-mail**：shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp

▲森林講座申込み